

## 米國視察談

大森安仁子

左は、新宿澁橋有隣園長大森安仁子夫人の米國からのお土産話の大要であります。大森安仁子夫人は、昨年二月渡米され、滿一年の米國視察を終へられて、三月九日歸朝されました。

私が米國では故郷ニュージールランドに主として暮し、久しく相離れてゐた親類知人と逢ふて、楽しい米國の生活をいたしました。その傍らこの土地の幼稚園事業や社會事業や婦人の活動等を調べてまゐりました。ニュージールランドにも、又クリヴランドや、オハイオ等は、近頃新しい試みとして、ベビー・クリニックと云ふ一種の施設が盛に行はれてある事です。ベビー・クリニックは日本語で何と云つたらよろしいでせうか、適當な譯語があると結構ですが、まあ幼い子供達の衛生相談所のやうなものです。ベビー・クリニックの建築物は堂々として、一般の病院のやうな組織になつてゐます。小兒科の醫師、育兒に馴れた看護婦等が多數居りまして、身體の弱い子供、病氣に罹つた子供達は、母親につれられて、此處に診察して貰ひに来ます。さうすると醫師はたゞ藥をや

る事ばかりせず、どう云ふ點でこの子供は發達が悪いか、どう云ふわけでこの子は病氣になつたかと、詳細に母親に注意して聞かせるのです。それですから母親は、この注意に依つて、自分の育兒上の不行届な所をはつきりと了解させられますから、二度とさう云ふ過ちに陥るやうな事はありません。貧しい家庭の子供には勿論無料のベビー・クリニックが諸所に設立されてあつて、寒い冬の頃貧しくて充分著物をきぬ爲に風邪におかされてゐるやうな可哀いさうな子供には、暖い著物もただで與へる位にしてあります。私は子供を健康に育てる上に大層有益な設備と、つくづく感心して見てまゐりました。私共の有隣園の子供達にも、經費が許す限りベビー・クリニックを設けたいと切に希望致して居ります。

ニューヨークではグリニッチ・ハウスを訪れました。グリニッチ・ハウスと云ふのは、私の友人シムコウイチ夫人の經營してゐるもので、子供達に一種の美的

教育を授ける事を主義とした幼稚園です。このグリニッチ・ハウスは目的だけ設備が總て完全で立派で、壁には美しい草花や名畫が飾られ、教室の窓からは眺め美しいお庭を見る事が出来るやうに、總て見るもの聞くもの、美に對しての讚美を子供の心に起らせるやうに組織されてあります。子供達は心地よい室で、彫刻する事を學び、繪を書く事を學び、歌をうたひ、詩をよみして、一日を楽しく過すのです、小さい子供達は、お互に自分のお友達をモデルにして、粘土の彫像をつくり、幾つも教室に並んでゐるのが見えます。又花瓶や、水呑や、お茶碗等を粘土でつくつてゐる子供達もあれば、女の子なら造花をつくつたり、刺繡をしたりするのも見受けれます。日本には未だかう云ふ傾向を有した幼稚園のないのが物足りなく思はれます。白い紙のやうな純潔な子供の心に、美しいものに對して 美的情操と云ふやうなものを養つたならば、どんなにか成人して粗雑な社會生活に對する時の、よい準備ともなりませう。

又子供達にお伽劇と云ふものを盛にさせて居ります。米國の法律では、少年少女は公衆の前に出て舞臺に立つ事は許されて居ませんけれど、極く上品に

子供の父兄を觀客として、學校等にて行ふ對話劇の程度のものなら、到る所に行はれて居ります。紐育に於て子供達のステーチを備へてゐるのは、富豪のユダヤ人達の經營してゐる、エジュケーショナル・アライアンスです。此處には立派なステーチが設けられてあつて、種々の新しい童話劇が絶えず出演されてゐるのです。又米國に於ては子供に圖書館を應用させる事が非常に盛に行はれてゐて、圖書館の兒童室はいつも子供達で一つぱいになつて居ります。東京には日比谷圖書館の兒童室のやうな設備が至る所の圖書館に備へられてあります。それから米國の幼稚園は語學に非常に重きを置いてあります。これは米國のやうな多くの外國人が寄り集つてゐる國に於ては、小さい子供達に米國の生活に親しませる爲に、どうしても英語を教へなければならぬのです。それですから外國人の子供は幼稚園に通學する事に依つて、將來成人してから一の米國市民として生活する準備をするのであります。